

Part3

【自主活動】

平和祈念事業への参加だけではなく、学校での報告や自主学習として積極的に【発信】しました。

【自主学習】 涌井 董子 (明治大学付属明治中学校1年)

【学校での報告】 松本 真紀 (晃華学園中学校1年)

涌井 董子

(明治大学付属明治中学校1年)

自主学习として学んだことをまとめました。

2019年度調布市広島派遣

戦争の悲惨さや平和の大切さについて考える



明治大学付属明治中学校 1年B組 涌井董子

140,000人

74年たった今も、苦しんでいる人がいます

あなたは
この数字が何か、わかりますか？

1945年8月6日午前8時15分
人類初、広島に原子爆弾が投下
命を奪われた人の数なのです

1、はじめに

ピースメッセンジャーは、調布市民の代表として被爆地である広島市へ派遣され、戦争・平和に関する現地施設の見学等を通じて、戦争の悲惨さや平和の大切さについて肌で学ぶ機会を設けられ、その成果を広く市民へ還元することを目指す。

本紙は、事前学習から広島派遣、事後学習を終えて、その成果を報告するもの。

6

2、原子爆弾とは何か？

物質のもと → 原子

原子の中心 → 原子核

一つの原子核が二つに分かれる → 核分裂

核分裂が連鎖的におこし、莫大なエネルギーを放出させるのが

↓
原子爆弾（原爆）

7

3、なぜ原爆が投下されたか？



東南アジアから資源を奪い戦争をしていたが、1945年3月以降、米軍の攻撃が激しさを増し、日本の戦況は圧倒的に不利になっていた。



原爆投下で戦争が終われば、戦後ソ連より優位に立つことができる。また原爆開発を国民に正当化できると考えた。

8

4、なぜ広島に投下されたか？

理由1

原爆の威力を測定できるよう、直径3マイル(4.8km)以上の市街地を選んだ。

理由2

広島に連合国軍の収容所がないと考えられていた。

理由3

8月6日広島は晴れており、原爆が投下目標を目で確認して投下することが可能だった。

9

5、広島に投下された原爆



広島の原爆リトルボーイ



(参考) 長崎の原爆ファットマン

- ・リトルボーイはウランが原料
- ・ウラン235、1gからの熱量は、石炭の300万倍
石油の200万倍
- それが今回は50gも使われた。しかし実際には5分の1しか核分裂しなかった。にもかかわらず14万を超える人が亡くなった。

10

6、爆心地周辺

現在の平和記念資料館の北東が爆心地。その隣が原爆ドーム。平和記念資料館前には原爆死没者慰霊碑、原爆の子の像などがある。



7、広島平和記念資料館

被爆者の苦しみを伝える目的で、2019年4月25日にリニューアルオープンされた。

被爆者の遺品、被爆の惨状を示す写真や資料等、実物を展示されている。



本館のホワイトパノラマ



被爆者の遺品

12

8、原爆ドーム

☆爆心地から近かったため、熱線で窓が溶け、爆風の通り道ができたので、骨組みだけが残った。

・原爆ドームを見ると亡くなった方を思い出すため、取り壊そうという意見と、未来のために残そうという意見で10年以上討論された。



13

9、平和の鐘

- ・ドームが宇宙を、鐘が地球を表している。
- ・周りの水は、亡くなった人へささげる。
- ・原爆投下時は満潮だったので人々は「熱い、熱い」と周辺の川へ飛び込んだ。



14

10、原爆の子の像、原爆死没者慰霊碑

- ・全国から寄せられた折り鶴が献納される。1年に1回、折り鶴はノート等にリサイクルされ子供達の元に届けられる。
- ・慰霊碑には死没者約32万人の名簿116冊が奉納され、年に1回風通しがされる。



折り鶴

原爆の子の像

15

1 1、似島 ～似島とは～

広島港から約3kmの沖合に位置する自然豊かな小さな島。

似島は爆心地から8km離れていたため直接的な被害がなく、その上似島の検知所には約5000人分の医薬品等があったため、被爆者が運ばれてきた。



16

1 1、似島 ～戦時のエピソード～

[水を与えてはいけない]

被爆者に水を与えれば死ぬという噂が流れていた。

水を与えなければ2～3日は生き延びることができ、家族に会わせてあげられるかもしれない、そう考えた男性は、病院の中に「水を与えてはいけない」というポスターを作った。しかし、目の前でたくさんの被爆者が水を求めながら死んでいった。

19

1 1、似島 ～防空壕～

- ・7つの入り口がある。
→1つの入り口がふさがっても出入りができる。
- ・防空壕に火葬場で処理できない死体を運び入れた。異臭がしていたが、次から次へと死体が増えるので入り口がすぐにふさがってしまった。



防空壕

17

1 1、似島 ～戦時のエピソード～

[水をくれ]

陸軍にいた15歳の青年は、防空壕で被爆者に足をつかまれ、「水をくれ」と訴えられた。水を与えてはいけないという命令が出ていたが、見ていられなくなって、こっそり水を与えた。すると、その被爆者は、「ありがとう…」と言って笑って死んだ。

どちらが正しかったのだろうか

20

1 1、似島 ～戦時のエピソード～

[勇敢な少女]

ケロイドになるのを防ぐための手術はあと数回ならできる。でも麻酔がない。そんな中、唯一自ら手術を受けたいと申し出たのは少女。彼女は左腕に火傷を負っていた。医師達は皆心を鬼にして手術に取り掛かったという。

戦後、大勢の人の命を救えなかったことをとても悔やんでいた院長の前に現れたのは左腕のない女性だった。あの時の少女だった。院長は、心に刺さっていたトゲが1本とれた気がした。

18

1 2、袋町小学校平和資料館

被爆直後から被災者の救護所として利用されていた西校舎内の壁面には被爆者の消息などを知らせる「伝言」が数多く記され、今も残っている。

また、ここにも折り鶴が献納されている。



21



(上)広島市似島遺構めぐり (下)広島市立袋町小学校平和資料館見学

1 3、被爆体験者の講話 河野さん

・プロフィール

現68歳、再生可能エネルギー関係の仕事をしている、入市被爆した

学校には防空壕があり、空襲がはじまったらすぐにそこに逃げるようにと言われていた。

教室に毛布を持ち込んだので床板の隙間に毛が一杯詰まり、そこに蚤が大量発生したため、夜間に交代で自分の足に集まる蚤を廊下で捕殺した。(つづ)

22

1 3、被爆体験者の講話 河野さん

(つづき) ようやく周りが明るくなったので逃げようとするが、橋の隙間に足をとられて動けなかった。友達に助けを求めどうにか脱出できたが、靴の裏側が裂けて、足の裏に約10cmの裂傷をうけていた。上着もズボンも焼けてボロボロになり、左顔面が一皮めくれていた。それがかゆくてたまらず、知らずに掻き破っては膿が流れ出すという長い経過をたどって、左顔面から左耳下にかけての大きなケロイドを残した。

23

1 3、被爆体験者の講話 河野さん

(つづき) 大分に帰省後、広島に戻るため鉄道の駅に向かっている時に、広島に原爆が落とされた。空襲警報が鳴り響き、一時降ろされたりしながらも広島市内へと向かい、変わり果てた惨状を見た。駅にて、門限に間に合わなければならぬという軍隊の厳しい掟に縛られて、悲惨な現状にも無感動だった河野さんは、ホームで子供の名前を呼ぶ母親の声に初めて人間の感情に戻り、涙があふれたという。

24

1 3、被爆体験者の講話 國分さん

・プロフィール

現90歳、お寺の息子さん、9人家族(母、父、妹3人、弟2人、姉、國分さん)

いきなり閃光がピカッと走り、頭を殴りつけられたような衝撃がきて柱に打ち付けられた。弟Aと父は脱出できていた。妹Aの声がしたので行くと材木に足を取られていた。助けることはできたが足が折れていた。母は弟Bと妹Bを抱いたまま死んでいた。即死だった。(つづ)

25

1 3、被爆体験者の講話 河野さん

・直爆した同級生藤田さんの被爆経験

鶴見橋西詰め空き地にて、北を向いて作業開始直前の訓示を聞いていた。すると突然青白い閃光が左斜め上からピカッときた。続いて起こった強大な爆風と熱線に思わず後ろ向きになり、何かに叩きつけられたように橋のもとにうつ伏せになった。辺り一面灰色のどす黒い高温の風が吹き抜け、全身が波のような強い力で圧迫された。(つづ)

26

1 3、被爆体験者の講話 國分さん

(つづき) 翌日姉が帰ってきた。強制労働先から線路に沿って帰ってきたという。爆心地から近いところにいた妹Cは全身火傷をしていた。なんとか見つけて家に連れて帰ったその夜に妹Cは亡くなっていた。

その後も簡単な家を作っては雨風によって何度も壊れたり、親戚が黒い雨のせいで亡くなったりと、大変な日々は続いた。

27



(上)第1回事前学習会 河野さんの講話の様子 (下)広島平和派遣 國分さんの講話の様子

ちょうふピースメッセンジャー2019実施事項

1. 事前勉強会

- ① 戦争体験者 河野良彦さんの講話
- ② 学びたいこと・成果をどう市民へ伝えるか（グループワーク）

2. 広島派遣（2019年7月29日～31日）

- ① 平和学習（広島）
広島観光ボランティアガイドの森幹男さんによるガイドで原爆ドーム、
原爆の子の像、平和記念資料館、公園内見学、見学後ミーティング
- ② 平和学習（似島）
広島市似島臨海少年自然の家の末繁さんのガイドで遺構巡り、
平和研修プレゼンテーション、見学後ミーティング

28

ちょうふピースメッセンジャー2019実施事項

4. （今後の予定）報告会

- ① 同年代に向けた派遣報告・発表
- ② 市長等、市特別職に向けた派遣報告
- ③ 戦争体験映像記録撮影（インタビュアーとして参加）

30

ちょうふピースメッセンジャー2019実施事項

- ③ 平和学習（広島）
広島市立袋町小学校
- ④ 被爆体験者 國分良徳さん講話
- ⑤ 原爆の子の像へ折り鶴献納

3. 事後学習会

- ① 原爆展に参加、被爆体験者 河野さん講話
- ② 神田さち子ひとり芝居観劇「帰ってきたおばさん」
ロビーにて一般の方からの派遣に対する質問受付、回答
- ③ 報告会準備
- ④ 「昇らぬ朝日のあるものを～幻のオリンピック」観劇
- ⑤ 広島平和派遣感想文提出

29

参考資料

- ・広島平和記念資料館 平和学習ワークブック
- ・広島平和記念資料館 学習ハンドブック
- ・広島平和記念資料館 平和記念公園めぐり
- ・国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 パンフレット
- ・広島市似島臨海少年自然の家 似島
- ・袋町小学校平和資料館 パンフレット

31



32



原爆死没者慰霊碑の前 折り鶴献納前の様子

松本 真紀

(晃華学園中学校1年)

晃華学園中学校の終業式に全校生徒の前で、広島平和派遣について発表しました。



体育館にて発表をする様子

私は、調布市の中学生平和派遣に参加し、ピースメッセンジャーとしてこれまで様々な体験をさせていただき、原爆や戦争のことを学んできました。この派遣を通して感じたことを報告します。

この中学生平和派遣に申し込んだきっかけは、本や学校で習ったことしかない戦争や原爆のことを、体験者の方にお話を聞いたり、広島に行き実際に目で見たり感じたりして、もっと平和について自分なりに考えたい、自分に何ができるのだろうと考えたからです。

最初は正直、ただ原爆や戦争はダメと当たり前の事として思っているだけでした。しかし、事前学習会で戦争体験者の方のお話を聞いたり、実際に広島で資料や遺構をみていくにつれて、原爆の恐ろしさが今まで以上に私にせまってきました。

広島では、平和記念公園や展示が新し

くなった原爆資料館を見学しました。そこでは原爆が投下された直後の写真や市民の描いた絵が心に残っています。全身にやけどを負った人の顔や、死の斑点ができた兵隊の絶望に満ちた顔が忘れられません。また、たくさんの遺品とそのエピソードも紹介されていました。それを使っていた人たちは、元は今の私たちのように普通に生活していた人たちでした。人工的に作られたたった1つの原子爆弾という兵器で、何も罪のない人が一瞬にして、身元もわからない位の状態で亡くなってしまったり傷ついた現実を知り、言葉にできないくらい悲しい気持ちになりました。

爆心地から460mしか離れていない袋町小学校にも行きました。児童、教師共に一瞬にして命を失った場所です。鉄筋コンクリートの校舎も倒壊全焼し、唯一残った西校舎の壁面には、離れ離れになって見つからな

い家族への伝言が今も残っていました。

原爆による放射線によって今でも後遺症に苦しんでいる人もいます。火傷が治った跡が盛り上がるケロイドは、かゆみや痛みだけでなくまわりからの視線や言葉による精神的な苦痛を受けたそうです。被爆によって胎児にも影響を及ぼしたりもしました。命があっても、その後つらい人生を送ることになってしまいました。原爆によって多くの人の命が犠牲になっただけでなく、生きる気力を無くした人や、大切な家族や友人を亡くしてしまって苦しんできた人々もいます。広島にいる間、胸がしめつけられる思いでした。

広島に行って一番心に残った場所は、似島です。私は似島のことを知りませんでした。似島は広島本土と違い原爆の影響は少なかったようですが、原爆で火傷をした人やケガを負った人が次々と運び込まれて看病のために使われたところです。島で治療してもらう人があまりにも多く、手あてが受けられたら生きていたかもしれない人も多く亡くなりました。多すぎて丁寧に埋葬することができず、遺体をそのまま埋めたり防空壕につめこんだりしたそうです。私が訪れた似島は青空で緑がきれいなところでした。原爆が落ちる前もきっとそうだったと思います。しかし原爆により多くの人が負傷して運び込まれ、まったく違う島になってしまいました。そこで起こった出来事を知り、悲

しみでいっぱいでした。

私は今回広島を訪れて、遠くの世界の出来事であった原爆のことが、目の前に「現実起こった」という事実が胸にせまってきました。まだ広島の下には、当時のがれきがたくさん埋まっているそうです。幸せな家族の生活が、原子爆弾によって人為的に一瞬でこわされてしまいました。そして多くの命が奪われました。傷を負った人や残された家族の人もずっとつらい思いをかかえて生きてきたことも知りました。私は今の平和な風景を、焼け野原だったり苦しむ人がたくさんいる残酷な風景にしたいくないと強く思いました。

私の家では、広島への派遣を機に、原爆や戦争の特集のテレビを見たり展示を見に行ったりするようになりました。家族で戦争や原爆の話をする時間も増えました。つらくて目をそむけたいこともあるかもしれませんが、今の平和を保つためには、戦争や原爆の恐ろしさや悲惨さについて多くの人がまず興味を持つことが大切だと思います。戦争体験者は少なくなっていますが、後世に伝えることが使命だと考えて講演をしたり執筆をしている方もいらっしゃいます。皆さんもぜひ、その方のお話を聞いたり、実際に現地を訪れて自分で感じてみてください。私も、これからも、平和や戦争について関心を持ち考える時間をつくっていかうと思っています。

